

令和元年度宮崎大学工学部特別講演

長岡浩司 先生

電気通信大学名誉教授

数理学・数理工学とは 量子情報理論の発展史を例に

日時： 2019年7月12日（金） 14:50 ～ 16:20

会場： 工学部 B 棟 101 講義室

講演概要： （世話人より）情報・通信系学科の定番科目「情報理論」は Claude E. Shannon が 1940 年代に作ったもので、まれに見る美しい理論構成のもとで展開されています。この理論は、数学でも物理でもありません。この数理学・数理工学（もしくは応用数学）とでもいうべき学問は、数学や物理とは根本的になにか違うのでしょうか。また、Shannon が成し遂げたような仕事を達成するには、どんな力が必要でしょうか。今回、長岡先生のご専門である「量子情報理論」がどう発展してきたかを例に、これらの学問の違いについてお話していただきます。大学1年生で習う線形代数以外の予備知識は極力仮定せずに、解説していただける予定です。

講師略歴： 1980年 東大・工・計数卒，1982年 同大学院修士課程了。1986年 阪大・大学院基礎工学研究科博士課程退学，1986年 東京工科大講師。1989年 北大・工 講師。1993年 電通大学院情報システム学研究助教授。2007年 同大学教授。2019年 同大学名誉教授。工学博士。ご専門は、古典および量子系の統計的推測，情報理論および情報幾何学。ご著書「情報幾何の方法」（岩波書店）。

主催： 宮崎大学 工学部

本件問合せ先： 伊達 章（情報システム工学科，A-333）. date@cs.miyazaki-u.ac.jp